



よこはま



URL <http://www.mod.go.jp/rdb/s-kanto/>



写真は御殿場市提供

施設の正式名称は「富士山交流センター」ですが、施設により親しんでいただくため、市民公募を行い、「樹空の森」と名付けられ、平成23年4月27日にオープンしました。（10ページ参照）

◇目次◇

- 1 局長 あいさつ
- 2 東日本大震災における支援活動
- 3 局長 感謝状贈呈
- 4 新幹部紹介
- 5 米海軍横須賀基地司令官インタビュー
- 6 米軍「トモダチ作戦」
- 7 応急危険度判定士による現地調査
- 8 護衛艦「いせ」引渡式並びに自衛艦旗授与
- 9 夜間巡回パトロール
- 10 こんにちは！富士防衛事務所です
- 11 陸自・高等工科学校の施設整備
- 12 自衛隊静岡地方協力本部の紹介
- 13 富士山交流センター（民生安定事業）

編集企画：南関東防衛局 広報紙「よこはま」編集委員会

発行：南関東防衛局 総務部報道室 TEL 045-211-7129

〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎

1. 局長 あいさつ



南関東防衛局長
深山 延暁
(みやま のぶあき)

去る3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故は、我が国に未曾有の損害を与えました。お亡くなりになった方々に謹んで哀悼の誠を捧げると共に、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

この大災害に対し、自衛隊も米軍も最大限の救援活動を実施しました。すでにその様子は、皆様ご存知のとおりと思います。

こうした活動ができたのも、平素から皆様のご理解をいただき、各地の駐屯地・基地そして演習場といった防衛施設を安定的に使用させていただいてきたおかげです。日頃の訓練・鍛錬があって、はじめてこうした時に力が発揮できるということを改めて痛感いたしました。

南関東防衛局は、今後とも各種の施策を通じて、防衛施設が所在している地域の皆様の負担を軽減し、防衛施設を安定的に使えるように努めてまいります。今年度から、防衛省の補助金・交付金について、若干の制度改正を行い、自治体の皆様により柔軟に使っていただけるようになりました。私たちもいろいろ工夫し、少しでも各自治体のお役に立ちたいと思っています。

また、東日本大震災から教訓を汲み取り、万が一、私たちの管内で大災害が発生したときには、よりスムーズな自衛隊・米軍の救援が可能になるように更に研究して参ります。その過程では、各自治体をはじめ、関係機関の皆様とよく協議させていただき、いざというときの意思疎通がよりスムーズにできるように努めて参りたいと考えております。

今年は、節電をはかりつつ、暑い夏を過ごすことになりそうです。健康に気をつけ、頑張りましょう。

2. 東日本大震災における支援活動



当局管内の神奈川、静岡、山梨三県からも多くの部隊が被災地に派遣されました。

一例を挙げますと、静岡県御殿場市に所在する陸上自衛隊駒門駐屯地の第364施設中隊は、4月12日から宮城県石巻市及び同牡鹿郡女川町において、行方不明者の捜索や油圧ショベル等重機により、瓦礫除去などを実施しており、現在も一部は活動中です。石巻市では、津波により多くの教職員や生徒が犠牲となった大川小学校においても、行方不明者の捜索や瓦礫除去などの活動を行いました。

また、当局においても、支援活動として、被災建築物の応急危険度判定（6ページの「応急危険度判定士による現地調査」参照。）や自衛隊・米軍による日米調整所などへの語学支援を行いました。

南関東防衛局からのお知らせ

平成23年5月19日(木) 15:00スタート

FM・ブルー湘南への出演について

- ・放送局：FM・ブルー湘南（78.5MHz）
- ・番組名：「遊びに来ませんかスタジオへ」
- ・放送時間：（本放送）毎月第3木曜日 15:00～15:30（再放送）翌々日曜日 16:00～16:30
*再放送は本放送の10日後となります
- ・出演者：南関東防衛局及び神奈川県内所在部隊等

3. 局長 感謝状贈呈



左側は在日米海軍司令官 リチャード B. レン少将

4月27日、在日米海軍司令官リチャード B. レン少将に感謝状を贈呈しました。

同氏は、当局が行う基地行政の円滑な遂行に協力、また、周辺自治体及び住民に配慮し、海軍施設関係の諸問題の解決に向け尽力されました。

更に、在日米海軍司令官として、東日本大震災の被災地の救援及び福島第一原子力発電所の事故対処に尽力されました。

4. 新幹部紹介



**防衛補佐官 1等海佐
川久保 正彦（かわくぼ まさひこ）**

3月25日付で南関東防衛局防衛補佐官を拝命しました川久保です。地方防衛局での勤務は初めてであり、風情豊かな港町・横浜で勤務できることに喜びを感じています。

防衛補佐官は、地方防衛局の事務に関し、部隊運用の見地から助言を行うことなどが求められています。

私は、これまで海上自衛隊において、主として護衛艦に乗り組み、勤務して参りました。これまでの部隊勤務での経験を生かして、南関東防衛局の円滑な業務推進に貢献していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。



労務管理官 根本 邦義（ねもと くによし）

4月1日付けで労務管理官を拝命しました根本です。横浜勤務は、防衛施設庁及び防衛省の勤務期間中、初めての経験であり、土地勘がないことからご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、皆様のサポートを受け勤務していきたいと思っております。

管内における在日米軍に勤務する駐留軍等労働者は、約9千3百人在籍しており、その労務管理は横須賀、座間及び富士防衛事務所とともに行っているところです。勤務期間中3分の2が労務関係業務を行ってきた経験を生かし、鋭意、問題解決に全力を尽くしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

5. 米海軍横須賀基地司令官インタビュー

当局管内には、多数の米軍施設がありますが、地元の方々が在日米軍の考えを知る機会があまりありません。

そこで、本日（5月11日）は、神奈川県横須賀市に所在している米海軍横須賀基地の司令官デービッド A. オーエン大佐にインタビューしました。



横須賀基地司令部
(写真は横須賀基地司令部提供)



オーエン司令官

Q： 米海軍横須賀基地の任務、重要性について教えてください。

米海軍横須賀基地は、米国外の海軍施設としては最大規模であり、第七艦隊や前方展開している艦船、そして、その乗組員と家族に対する支援を行っています。

また、当基地は米国のためだけに存在しているのではなく、日本の方々や自衛隊と協力することで、この日本周辺地域におけるさらなる安定と安全を維持する役割もあります。

Q： 東日本大震災では、米軍の「トモダチ作戦」による救助・救援活動や、物資・食料の支援活動、空港や鉄道の復旧活動などの様子がマスコミで連日のように報道され、日本の国民も大変感謝しています。

この大震災に対する「トモダチ作戦」について、重要点や留意していることがありましたら教えてください。

必要とされている救助や支援を、できる限り早く提供することでした。行き場を失い、食料や避難場所を必要としている何千人もの被災者を見つけだし、支援業務を速やかに行うことが重要でした。日本の方々は私たちにとって友達であり、よき隣人です。助けを必要としている時には、すぐに対応したいと思っています。

Q： 「災害対応準備及び災害救援の共同活動に関する横須賀市と在日米海軍司令部及び米海軍横須賀基地司令官の覚書」（略称：防災協定）について教えてください。

防災協定は、横須賀市と私たちが災害時に協力し合うことについて、合意したものです。互いに助けが必要な際にはあらゆる手段で支援します。地震、津波、台風であれ災害に立ち向かうときは、全力で助け合います。

Q： 東日本大震災の際、重油を無償提供したとして、横須賀市上下水道局から感謝状を贈られていましたね。この重油の提供も防災協定の精神に基づいたものでしょうか。

そうです。横須賀市から、停電で汚水処理を継続できないと汚水が海に放出されてしまうため、自家発電装置の燃料を必要としているとの連絡を受けました。

私たちとしても憂慮する事態でしたので、躊躇することなくすぐに必要な重油を提供しました。



左側が司令官
(写真は横須賀基地司令部提供)



南関東防衛局大和屋係長と司令官

Q： 司令官として、いつも心掛けていることについて教えてください。

日本では私たちが常に米国の親善大使であり、良き隣人であるよう心掛けています。

また、横須賀基地に勤務する軍人・軍属や家族たちにも同じように指導しています。

Q： 10年ぶりに日本に来て10ヶ月がたちましたが、日本での暮らしの感想をお聞かせ下さい。

任務は多忙ですが、日本での生活に非常に満足しています。日本に戻って来ることができ、この国で任務を遂行し、日本の方々と共に活動できることを嬉しく思います。

また、私の妻は日本人なので、彼女ももちろん日本が大好きです。今は子ども達と米国で暮らしている為、私を訪ねに日本に来ることを楽しみにしています。妻は相模大野出身で、私は度々、彼女の両親に会いにそちらに行きます。

Q： 日本の言葉や諺あるいは風習等で好きなものはありますか。

お寿司が好きです。また、「富士山に一度も登らぬ馬鹿、二度登る馬鹿」という言葉が気に入っており、横須賀に新たに配属された軍人・軍属等への説明会でもよくこの表現を紹介します。かくいう私自身は三度登っていますので、もしかしたら「賢者」なのかもしれませんね（笑）。私にとって富士登山は、趣味というより、毎回挑戦なんです。最後に富士山に登ったのは去年のことです。



左より、横須賀基地司令部清水民事部長、南関東防衛局大和屋係長、オーエン司令官、横須賀基地司令部杉田広報担当者、三溝横須賀防衛事務所長、阿部横須賀防衛事務所課長

Q： 日本のみなさんへメッセージをお願いします。

どうぞ困難にくじけず、踏ん張ってください。3月11日以来、さまざまな被害を受け困惑されていることと思いますが、日本が過去に見せた強い回復力・復興力を再度発揮し、必ず立ち直ると確信しています。私たちは常にそばにおり、いつでも支援いたします。

6. 米軍「トモダチ作戦」

この度の東日本大震災に対する在日米軍による「トモダチ作戦」の各種支援活動等について、在日米陸軍司令部広報担当者から説明をして頂きました。



在日米陸軍コマンドセンター



在日米陸軍の広報担当者は、「同盟国である日本に対し、役に立てることは、光栄である。」と述べられました。

7. 応急危険度判定士による現地調査



当局職員による現地調査

部隊等からの支援要請を受け、応急危険度判定士の資格を有している当局職員は、3月12日及び25日に被災施設の現地調査を行いました。

8. 護衛艦「いせ」引渡式並びに自衛艦旗授与式

3月16日、株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド 横浜工場において護衛艦「いせ」（基準排水量 13,500トン型 起工式：平成20年5月30日）の引渡式並びに自衛艦旗授与式が行われました。当日は防衛省の代表として杉本海上幕僚長はじめ南関東防衛局等の多数の防衛省関係者、会社関係者などおよそ400人の人々が見守る中、挙行されました。

「いせ」は、昭和47年に就役した「ひえい」の後継となる「ひゅうが」型2番艦で、「ひえい」と比較するとヘリコプター運用能力等が大幅に向上し、災害対処等の多機能性を重視して建造された護衛艦です。呉を母港として配備されました。

9. 夜間巡回パトロール



4月22日撮影

4月22日及び5月20日、地元自治会、神奈川県、横須賀市、米海軍横須賀基地、ガーディアン・エンジェルス（各地でパトロールを実施するNPO）、横須賀警察署、海上自衛隊横須賀地方総監部及び南関東防衛局等が参加して、夜間巡回パトロールを実施しました。

これは、平成6年（1994年）9月25日に発生した米兵と日本人の集団乱闘騒ぎを契機に、犯罪・事故防止などを目的として、同年10月から毎月1回程度行っているもので、5月20日現在で184回目となりました。

この夜間巡回パトロールは、午後10時30分から午前0時00分までの間、米海軍横須賀基地周辺のドブ板通り、京急汐入駅周辺、街中の公園、京急横須賀中央駅周辺等を一周するもので、当局からは、深山局長ほか参加しました。



4月22日撮影

同パトロールは、途中で会った人たちへの声掛けを行ったり、また、路上に落ちていた吸い殻や空き缶などのゴミを拾いながら繁華街を巡回し、地元自治会、米軍、行政機関等が一体となってパトロールしており、犯罪の防止や街の美化に寄与しております。

10. こんにちは！ 富士防衛事務所です

富士防衛事務所管内に所在します富士学校の校風についてご紹介します。

富士学校の正門を抜けて30m位進んだ道路の左側に『明朗闊達和楽（めいろうかつたつわらく）の間（かん）に進んで難局に当る』と記された石碑があります。同石碑に刻まれた言葉は、初代富士学校長である杉田一次陸将が人材育成の教育方針として戦いに勝つ実行家を養成するために示されたものであります。

- 一粒一粒の砂の力が立派で気高い富士山を作り上げている。富士山の如く明朗高潔で闊達剛毅でありたい。
- 霊峰富士の如く、我々は世論に惑わず政治に関わらず進んで難局に当たり、その使命を達成。
- 自衛隊の隊員一人一人に活を入れ、新鮮な空気を流し込むのは富士山麓にある者の責務。

という内容であり、普通科、特科及び機甲科の学生達の学びの場に良き伝統として代々受け継がれています。



11. 陸上自衛隊高等工科学校の施設整備



写真は陸自・高等工科学校提供

陸上自衛隊高等工科学校は、神奈川県横須賀市に所在する陸上自衛隊の防衛大臣直轄機関の一つで、平成21年度末に自衛隊生徒制度の変更に伴い少年工科学校から組織改編されました。

当局は、同学校の新たな教育基盤及び隊務運営基盤を整備するため、野球場、ラグビー場、陸上競技場、サッカー場などをはじめ、それらに付随する照明設備、スプリンクラー設備、バックネット等の運動施設を整備しました。（平成23年3月末完成）。

また、同運動施設整備の本体工事に付随した芝生舗装、防球フェンス、コンクリート歩道等については、本年7月完成予定です。

既存のグラウンド地区には、新たに教場（鉄筋コンクリート造3階建/約6,700㎡）の整備を平成24年1月までに、講堂（鉄筋コンクリート造2階建/約3,000㎡）の整備を平成25年1月までに各々完成予定です。（調達部）



陸上競技場



野球場

12. 自衛隊山梨地方協力本部の紹介



自衛隊山梨地方協力本部は、山梨県甲府市北新に本部を設置し、県下3箇所の出先事務所と北富士駐屯地内に地域援護センターを配置しております。山梨県下における防衛省・自衛隊の窓口として、自衛官等の募集、国民保護・災害派遣における県市町村との調整、隊員の就職援護、予備自衛官等の採用・管理等を行っております。

また、部外協力支援として、学校教育における総合的学習、インターンシップ、大学での防衛・防災講話、自治体職員・企業社員に対する生活体験、自治体イベントにも積極的に協力しています。



郵便局でのパネル展示



入隊予定者研修



援護企業研修



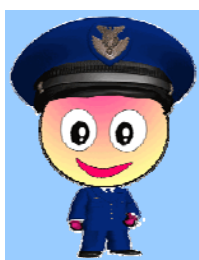
中学校総合的学習



大学での学園祭



大学での学園祭



山梨地本キャラクター：陸海空のJ太(じえいた)

問い合わせ先

住所 〒400-0005

山梨県甲府市北新1-7-9

電話 055-253-1591

mail hq1-yamanashi@pco.mod.go.jp

13. 富士山交流センター（民生安定事業）

御殿場市は、平成20年度から東富士演習場周辺のまちづくりのための「交流拠点づくり事業」を進めており、市民や観光客と自衛隊との交流を深めることを目的とした「交流センター」としての機能とともに、富士山や自然環境を活用した森林公園の整備を実施しています。

この事業は、当省の補助事業である防衛施設周辺的生活環境の整備等に関する法律第八条「民生安定助成事業」に基づき、「まちづくり」のための支援として、防衛施設の存在を活用し、自衛隊の関連資料等を展示するほか、当該地域における多様な地域間交流の拠点施設として助成しています。

本事業は、主要な建物となるビジターセンターと自然環境を活かした公園を整備するもので、ビジターセンターには、映像や展示物で富士山を紹介する常設展示室（270インチの大型スクリーンにより富士山の様々な映像が鑑賞できる景観シアター）などを整備し、公園には、屋外ドームがある芝生広場、自衛隊ヘリコプターの展示広場などを整備しています。

この施設の正式名称は「富士山交流センター」ですが、施設により親しんでいただくため、市民公募を行い、「樹空の森」と名付けられ、平成23年4月27日にオープンしました。

これらの施設の整備により、自衛隊員との各種活動を通じた積極的な交流が促進され、自衛隊に対する周辺住民のより一層の理解の促進が図られることが期待できます。当局としては、今後とも、こういった施設の整備などを通じ、周辺住民の皆様方の民生安定に最大限努力してまいります。

（企画部）



ビジターセンター

（写真は御殿場市提供）



まるびドーム



天空シアター



開園記念式典



詳しくは御殿場市ホームページ
をご覧ください